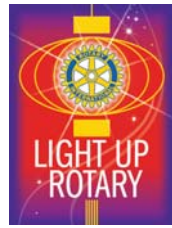




2014～15 年度
国際ロータリー会長

ゲイリー C. K. ホアン

Weekly Report Niigata



ロータリーに輝きを

2014～15 年度 国際ロータリーのテーマ



2014～15 年度
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀樹

新潟 RC 9 月第 3 例会 (2014.9.16) No.3056

(1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2) 高橋 秀樹会長挨拶

さて問題です。あるロータリアンのお嬢さんで、昨年からは今年にかけて、世界的に有名になった方がいます。どなたでしょう。ヒント：このお嬢さんは、2013 年 7 月 12 日に国連本部で演説し、史上最年少でノーベル平和賞候補に名前があげられました。

おわかりになりましたでしょうか。答はマララ・ユスフザイさん、『わたしはマララ』の著者です。ロータリアンの御身内がノーベル平和賞候補になったのですから、いわばロータリアンの教養として読んでおくべき本と言えるかと思ひます。但し、この本がだれからも手放しで絶賛されているかと言うとそうではなく、いろいろ調べてみますと賛否両論あるようです。その是非は読んだ方それぞれの判断によると言えましょう。ともあれ、日本語訳でも 430 頁になる本で、しかも内容は楽しくておもしろいものというわけでもないで、なかなか読むのが大変かと思ひます。国際ロータリーの HP に紹介があり、「ロータリー、マララ」で検索すると簡単に見つかりますので、本を読むのが大変だという方はご覧になってみてはいかがでしょうか。しかしそれを見るのも難儀だという方もおられるかと思ひます。私は一通り目を通してみましたので、至らないところも多いかと思ひますが、紹介させて頂こうと思ひます。

彼女の故郷はインドの西隣の国パキスタンです。パキスタンは 1947 年に独立した国家ですが、頻繁にインドと領土紛争を続けてきました。その係争地帯の近く、北西辺境州のスワート渓谷でゼブ・ジラニさんという方がロータリークラブを創設します。彼女が入会を呼びかけた人々の中に、教育普及活動を行っていたジアウディン・ユスフザイさんという方がいましたが、その長女がマララ・ユスフザイさんになります。

パキスタンのイスラム教徒の中には、女子の学校教育がイスラム教の宗教的規範に反すると考える立場の人々がいます。ロータリアンである、マララさんのお父さんは、学校教育を普及させようといくつも学校を建て、長年にわたって活動してきました。しかし、スワート渓谷にテロリストの勢力が及ぶようになり、状況はどんどん厳しくなっています。マララさんは学校で勉強を続けながら、ブログやマスコミのインタビューを通して発言していき、世界的

に注目されるようになりますが、2012 年 10 月 9 日、15 歳の時に、スクールバスを襲撃したテロリストに撃たれます。イギリスのバーミンガムの病院に移送され、世界中の多くの人々から支援を受け、奇跡的に回復します。そして、2013 年 7 月 12 日にニューヨークの国連本部でスピーチを行うのです。

その内容は、テロリストに対する復讐や宗教的問題を扱うものではなく、女子の教育機会拡大への支援を訴えるものでした。ロータリーの 6 つの重点分野の一つが「基本的教育と識字率向上」であることは、みなさん御存知の通りです。マララさんの本の紹介にあたって、最初に彼女の国連スピーチの締めくくりの文章を挙げたいと思ひます。

「世界の無学、貧困、テロに立ち向かいましょう。本とペンを持って闘いましょう。それこそが、わたしたちのもっとも強力な武器なのです。一人の子ども、ひとりの教師、一冊の本、そして一本のペンが、世界を変えるのです。教育こそ、唯一の解決策です。まず、教育を。」(424 頁)

このような決意にいたるまでの様々な出来事が本の中で記されています。ご紹介したい部分はたくさんあるのですが、少しだけ抜粋したいと思います。

「マラカンド峠を越えるとき、オレンジを売っている女の子をみかけた。売ったオレンジの数を、鉛筆で紙に書き留めているのだけど、文字でも数字でもなく、チェックマークをつけているだけだった。読み書きができないのだろう。私はその子の写真を撮り、これからできる限りのことをして、彼女のような女の子が教育を受けられるようにしていこうと心に誓った。」(286 頁)

「教育を否定するのは、子どもが本を読んだり英語や科学を学んだりすれば、考えかたが西洋化すると思っているからなのだ。わたしはいった。「教育は教育です。いろんなことを幅広く学んで、そのなかから自分のすすむべき道を見つけていくべきだと思う」教育に西洋も東洋もない。教育は人類みんなのものだ。」(218 頁)

「わたしは学校が大好きだったけど、……中略……教育の大切さをちゃんと理解していなかったと思う。学校に行き、本を読み、宿題をする。それはただ時間を費やしているだけではない。未来を作っているのだ。」(197 頁)

以上は、教育の必要性をストレートに訴えている部分ですが、その他の点でもいろいろと印象に残るくだりがあります。

「学校で、父は平和行進隊を作り、現状への不満をみんなに話させた。モニバ（クラスメートの一人）の言葉がとても印象に残っている。「わたしたちパシュトゥン人は、信心深い民族です。……中略……世界はパシュトゥン人がみんなテロリストだと思っていますが、それは違います。わたしたちは心から平和を愛しています。わたしたちの山も、木も、花も、この渓谷にあるものはすべて平和のために存在するのです」（189 頁）

「電気が止まった。その数日後、ガス管が爆破されて、ガスも来なくなった。前に使っていたプロパンガスを市場に買いに行くと、値段が二倍になっていた。そこで、母は昔、村でやっていたように、薪を燃やして煮炊きをするようになった。それでも母は文句ひとついわなかった。料理をしなければならないから料理をする、それだけのことよ、といていた。もっと大変な思いをしている人たちもいると思えば、我慢できる。ただ、きれいな水が手に入らないのは問題だった。コレラにかかって死ぬ人が出てきた。患者が多いので、病院もお手上げの状態だった。外に大きなテントを張って、そこで手当てをするしかなかった。」（195～196 頁）

（撃たれた後、しばらく顔面神経が損傷したまま治療が続いていたときのエピソード）「わたしは昔からよく笑う子だった。父はわたしの笑顔や笑い声を「天使のようだ」といって、まわりの人たちに自慢していたものだ。父は母を相手に嘆いた。「目鼻立ちの整った、まぶしいほど美しい顔は、どこへ行ってしまったんだ。もう笑うこともできないなんて。……中略……角膜や肺は移植することができても、笑顔だけはどうにもならない」（378 頁）

この他にも紹介したい部分はたくさんありますが、時間も限られていますので、これくらいにしておきます。最初に述べましたように、賛否両論あり、その内容については読者が自分で判断することが大切かと思いますが、いろいろと考えさせられるところの多い本です。私は、職業柄、仕事として読まなければいけない書物が山のようにあり、どうしてもその他のものに目を通すことは等閑になりがちです。ですから、この本も、ロータリアンの家族の話としてみなさんに紹介しようと思い立たなければ、時間をかけて丁寧に読むことはなかったかもしれません。みなさんの御蔭でこの本に向き合い、会長挨拶で紹介する機会を得られましたことを、みなさんに感謝します。ありがとうございました。

・会長より広島豪雨災害義援金のお願い。

65、400円の協力があり、ガバナー事務局指定口座へ送金した。

(3) ビジターの紹介

Dr.Bockhold Wolfgang(Friedberg RC)、山口眞樹君(金沢 RC)

(4) 新会員の紹介



(株)第四銀行執行役員本店営業部長
兼新潟空港出張所長 吉弘 賢司

親睦委員

みなさま、このたび若杉武様、竹石松次様のご推薦を賜り、伝統ある新潟ロータリークラブに入会させて頂くことになり、心より感謝申し上げます。6月25日付にて南新潟支店から本店営業部に赴任して参りました。入行して30年を超えますが、今まで新潟県以外の勤務は無く、新潟県内各地でお取引先様や地域の皆様とのお付き合いにより、様々な経験をさせて頂いて現在に至っております。これからも新潟各地の素晴らしさを県内外に発信し、新潟の活性化の為に努力して参りたいと考えております。入会にあたりロータリークラブの活動は初めてでご迷惑をお掛けする事が多々あると思いますが、みなさま方のご指導を賜り、地域貢献・社会奉仕につきましても微力ながら努めて参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

(5) ニコニコボックス紹介

・五十嵐 幸雄君 過日、妻の葬儀の際は高橋秀樹会長さんを始め、ご会葬、ご芳志をいただきました。とり急ぎ御礼を申し上げます。

・若杉 武君 新会員吉弘賢司さんを迎えてニコニコです。

・鈴木 滋弥君 介護施設に入居中の家内の母が昨日(老の日)に国県市からお祝いを頂戴致しました。有難うございました。

・山本正治君 ピアニスト濱田さんは今日、雨にこだわっていました。雨にうたえば、雨にぬれても(Raindrops keep falling on my head)など、なつかしい歌を拝聴しましたのでニコニコします。

・塚田正幸君 (1) 去る13日(土曜) 県内酪農団体と乳業協会主催の「学校給食フォーラム」を新潟市内で開催しました。全国から著名な3名の講師を招いて、食文化の成り立ち、戦後の学校給食の歴史と役割、成長期の生徒の学校給食の栄養学的役割について講演していただきました。栄養士、学校関係者、一般参加者など200名を超す参加者で盛況でした。TV、新聞マスコミ各社に取材していただ

き、14日の新潟日報朝刊に掲載されました。ありがとうございました。

(2) 14日～15日と1泊2日でテニス仲間16名で十日町の当間高原で合宿に参加して来ました。30年来続いているテニス同好会で、50代後半から70歳と熟年で夫婦の参加者も大勢でした。高原の爽やかな気候で2日間テニスをやり、夜は懇親会で盛り上がり楽しい二日間でした。

(6) 表彰等

- ・得永 哲史さんへ米山功労者第2回マルチプル感謝状贈呈
- ・鈴木 滋弥さんへマルチプル ポールハリス フェローピン贈呈
- ・新潟クラブ宛 第47回米山功労クラブ感謝状披露

(7) 幹事報告（安藤 栄寿幹事）

・例会終了後、新会員オリエンテーションを4階「楓の間」で開催致します。

(8) 会員スピーチ

「会員増強と我がクラブの現状について」

クラブ奉仕A委員長 石本隆太郎君

（内容は右記に記載致します）



(9) 本日の出席率 73.69 %

(2週間前メーク後 84.22 %)

9月30日のプログラム

卓話 公財)中越防災安全推進機構

復興デザインセンター長 稲垣文彦氏

新潟ロータリークラブ会員専用ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

【講話資料】

2014/9/16

例会卓話:「会員増強と我がクラブの現状について」

クラブ奉仕A委員長 石本隆太郎

【はじめに】

*参考資料の説明①会員増強診断書、②主要国会員数増減一覧表、③2040年における新潟県内市町村人口推計

1. 早速、本題に入らせていただきますが、「ロータリーの友」5月号に「会員はなぜ退会するのか?」「私たちは何をすれば良いのか?」という表題で、当時のロン・バートンRI会長へのインタビュー記事が掲載されていました。

2. お読みになった方もおられると存じますが、要約すると、『過去10年間で、世界のロータリー会員数は約120万人の横ばい状態であり、この10年間に入会したのと同じ数だけ退会している。』

『ロータリー会員数は多くの地域で減少しており、2013年7月1日現在の会員数は、118万5,000人で、過去10年間で最も少ない数字となっており、ロータリーの直面する、クラブでの新会員入会と会員維持を支援するために、300万ドル≒3億円をかけて取り組む。』

『ポリオ撲滅後は会員増強がロータリーの最優先課題となるであろうし、全世界の会員数が伸び悩み、多くの地域で会員が減っている現在、会員増強に向けた16の地域別計画を立てた。』

『地域別計画とは、理事全員が会員増強の目標数を打ち出し、達成を目指して全ガバナーに働きかけ、戦略の1つとして、新会員を推薦した会員を認証する際に、襟ピンと一緒に着用できる裏当てを進呈し、裏当ての色で何人の新会員を入会させたかが分るようにする。』とのことであります。

(国会議員バッチのようなものをイメージすればいいのでしょうか？あまり効果があるとは思えません。)

3. 私は、ロータリーの目的は、定款4条に定められている通り、4つの項目に集約されたこと以外になく、会員増強は、その目的を達成するための手段の1つであると考えておりましたので、RI会長が公式に「ボリオ撲滅後は、会員増強がロータリーの最優先課題となる。」と言いつけられたことに驚きました。

4. 5月号には、「ロータリーが成長している国とその理由」という記事と共に、2003～13年の10年間の会員数と減少率、増加率のデーターが載っていましたので、参考資料として、2001年～2009年の「主要国会員数一覧表」と組み合わせる表を配布させていただきました。

*対象期間が異なるため正確な対比はできないが、特にアメリカの会員数が急減している点に注目。

	2003～2013年間で 会員数が最も減少した国		
アメリカ	-	58,481	-15%
日本	-	23,248	-21%
イギリス	-	7,743	-16%
オーストラリア	-	5,260	-14%
カナダ	-	4,167	-14%

	2003～2013年間で 会員数が最も増加した国		
インド	+	34,068	38%
韓国	+	12,671	26%
ドイツ	+	11,114	27%
台湾	+	7,567	49%
ブラジル	+	4,045	8%

5. これらのデーターを見ますと、我国だけでなく、ロータリーの本家ともいえるべきアメリカの会員減少が著しく、RIとしても“なりふり構わぬ状況！”になってきていることが良く分ります。

6. インドや韓国を発展途上国とするかどうかは別にして、経済先進国のドイツが会員数を増やしているという現実から、何故、アメリカと日本の会員数が急減しているのか。言い換えると、“会員減少問題は、日本とアメリカ2ヶ国だけに極端に表れている現象である！”という現実に目を向けるべきです。

7. 今年度の黄其光(Gary C.K. Huang) RI会長は台湾・台北RC出身の方ですが、ロータリーの友7月号のRI会長メッセージの中で、年度テーマ『ロータリーに輝きを』に触れ、前述の新会員推薦者の認証ピンの他に、ロータリー家族(ローターアクトクラブ、インターアクトクラブの会員OB等)の新世代や、会員自身の配偶者・家族も新しい会員に誘い、強いロータリーを維持してほしいと述べておられます。

8. 8月号にも、1月の国際協議会において、会長夫人がロ

ータリーに入会されたことから、世界中のガバナーエレクトに、奥様をロータリー入会に誘うべきであると話されたとの記事が載っておりました。

(この提案に対して、我国の34名のガバナーがどう反応されたか、佐々木Gに聞いてみたいものです。)

【第2560地区と新潟クラブの会員増強について】

1. お配りした「第2560地区・会員数順・クラブ会員数対比表」をもとに、説明させていただきます。

2. 今年度、RIでは、年度末までに全世界の会員数を130万人、日本の会員数10万人を目標としており、前述のように、毎年、RI会長は様々の戦略を打ち出しておられますが、目標達成へのハードルは高く、2013年7月1日の全世界の会員総数 1,185,074 人(RI公式発表)、日本の会員数 86,756 人という現状から、私自身は、“絵に描いた餅！”に終わる公算が大と判断しております。

3. 当地区の現状は、会員数がピークであった20年前の栗山ガバナー年度の2,669名から、原ガバナー年度までの10年間で454名も減少して2,215名に落ち込みました。地区分割を目指して、この10年間で10クラブの新設クラブが誕生し、344名のチャーターメンバーが加わったのにも関わらずであります。

4. この表の見方については、これまで地区の会員増強セミナーや、新潟クラブの卓話等でも何度か紹介させていただきましたので、詳しい説明は省略いたしますが、前年度との会員増減率を色別に表示し、青色が純増プラス、ピンク～赤色が純増マイナスを表します。

5. 中條ガバナー年度に、私が地区会員増強委員長を仰せ付かった際に開発した分析表であります。この表が各クラブの会長や会員増強委員長に与えたショックは大きく、この年の会員純増数62名となり、会員純増日本一となりました。(この年は、全国34地区のほとんどが、純増数がマイナスでした。)

6. この表から読み取れる重要な点は、単にクラブ毎の20年間の会員数の推移を見るだけでなく、地区全体でみた場合、規模の小さいクラブほど会員増強に苦勞している点が傾向として読み取れることで、現在の会員数20名未満で、ピンクまたは赤色で塗られた前年比会員減少率が85%未満のクラブは、遠からず、妙高高原クラブと同じ運命をたどる可能性が高いということでもあります。

7. 地区会員増強セミナーやアンケート調査も実施しましたが、クラブの規模や創立年数等が全く異なり、“どのクラブにも共通するような会員増強の特効薬は無い！”というのが私の結論でした。

8. 要は、クラブ会長や会員増強委員長が、自分のクラブの現状と将来に対して問題意識を持ち、増強に対して真剣に取り組むかであり、生活習慣病の治療と一緒に、例会充実のためのプログラム委員会や、親睦委員会、出席委員会等々、全委員会の総力を上げなければ、効果が上が

らないのです。

9. 本日は時間の制約もあり、詳細の説明を省略いたしますが、私の分析では、ロータリー1クラブ当りの人口基盤は3万人が必要であり、当地区のかなりのクラブはこのレベルを下回っております。

10. これらの地域は、日本創成会議が中央公論の昨年12月号で発表した「壊死する地方都市」の人口急減地域と重なり、抜本的な対策を講じないと、山本直前会長が「ロータリーこぼれ話」の中で述べられた『日本からロータリアンがいなくなる年』の先駆けとなる事は間違いありません。

【新潟ロータリークラブの現状と問題点】

1. 当クラブも、栗山G年度の138名から、原G年度までの約10年間で54名も会員が減少しましたが、その後の10年間はほぼ80名前後で推移し、年度内に90名の大台に乗っても、6月末の終了時には再び80名前後になるという繰り返しでした。
2. 今年度7月1日の会員数は、久しぶりに92名の台からのスタートで、年度内の100名の台突破は確実ですが、出来れば来年の竹石会長年度のスタートが、100名台からとなる事を願っています。
3. 数年前に、次々年度会長、および次年度役員・理事候補を選考する「指名委員会委員長」を務めた際、会長候補者を絞り込む為に、得意とする当クラブの会員を年齢順に並べ替えた表を作成いたしました。
4. 個人情報に触れますので、その表を公表することはできませんが、転勤等による退会の可能性の無い地元会員の中から年齢が75歳未満で入会歴10年以上の方を選び、会長経験者や出席不良会員等を除くと、地区内最多会員数を擁する新潟クラブといえども、次々年度会長候補者は、ほんの数名程度に絞られることが判明いたしました。(これが、毎年、指名委員会が難航する要因になっています。)
5. 平均年齢も、地元会員だけに限ってみれば、65歳以上の高齢化クラブの範疇に入り、5大奉仕を中心とする委員会活動を活性化させためにも、地元若手会員、女性会員の増強は急務であります。
6. 又、7年毎のガバナー補佐の選出や、地区内リーディングクラブとしての宿命で、10年から15年毎に、ガバナー選出という可能性からも、クラブ会長の経験だけでなく、地区委員・委員長経験者の層を厚くしておくことが必要で、その意味からも、会員増強の重要性を訴え、本日の卓話を終わります。

9月16日・例会卓話補足:ガバナー公式訪問の感想

RI 第2560地区

2011～12年度ガバナー 石本隆太郎

* ガバナー公式訪問時における感想を、「会員増強問題」に的を絞り、下記の通りまとめてみました。

1. 2014年7月1日現在のクラブを会員数順に並べると、大規模クラブ(会員数50名以上)が11クラブ、中規模クラブ(会員数30名以上50名未満)が22クラブ、小規模クラブ(会員数30名未満)が23クラブとなり、その内、7クラブが会員20名未満の零細クラブとなります。

2. 新クラブ創立時における最低人数は、ロータリー章典18.040.5により下記の通り定められています。「新クラブは、最低20名の創立会員を有していなければならない。創立会員の少なくとも50パーセントは、新クラブが創立される地元地域社会に居住、又は勤務している人でなければならない。」

3. ロータリークラブが、その目的とする奉仕活動を効果的に行うためにも、各クラブの組織・運営上は、会長以下、直前会長、会長エレクト、幹事、会計、副会長、会場監督の7名の役員と共に、5大奉仕を担当する5名の理事(常任委員長)の計12名の理事会構成員が必要とされるため、最低人数を20名と定めているのだと思います。

4. クラブ創立後、不幸にして会員数が20名を割り込んだ場合、役員・理事が複数の役職を兼務したり、奉仕活動の一部を犠牲にせざるをえなくなり、当然の結果として、2度目、3度目のクラブ会長が出たり、会長、幹事の任期を2年毎にする(定款違反)クラブまで出てくる始末で、効果的なクラブ活動に支障をきたすようになり、それがまた会員減少に拍車をかけます。

5. 私がガバナーを務めた2011年7月現在、会員数20人未満の零細規模のクラブ数は9クラブであり、2013年11月に妙高高原クラブがついに解散に追い込まれたが、他の零細クラブも、遅かれ早かれ同じ運命をたどる公算が大であるというのが、私の偽らざる気持ちであります。

6. とはいものの、2011～12年度ガバナーとしての責任上、これら零細クラブへの公式訪問の際は特に小山地区幹事にも同行していただき、クラブ指導者と真剣に討議を重ねましたが、クラブ存続への熱意は感じたものの、例会内容、出席率等は芳しいものではなく、新会員増強にはかなり無理があるというのが率直な感想でした。

7. 中規模、小規模クラブの中でも、過去20年余りの間における日本経済の不振や、地場産業の落込み等の影響で会員数を大幅に減らしているクラブが多く、特に零細クラブの存立する地域の人口基盤が急速に減っている現状から、今後、クラブが生き残るには合併以外ないと思われます。

8. 一方において、中規模、大規模クラブの中には、クラブ活動も活発で、当新潟クラブに引けを取らない立派なクラブもいくつかありますが、それらのクラブの共通点は、同じ

地域内に複数クラブが存在し、良い意味での競争意識を持って互いに切磋琢磨している点と、女性会員の存在が会員への刺激となり、クラブ全体の雰囲気明るくなって、クラブの奉仕活動にも好影響が出ていること等が上げられます。

9. いずれにしても、「会員増強」はクラブの規模や会員の平均年齢、クラブの創立年度や地域性によって対応策が異なり、どのクラブにも共通する“万能薬”のようなものは存在しないというのが私の持論ですが、しいて言うならば、下記の点が上げられるかと思います。

①他のボランティア団体に比べて年会費が高過ぎ、その最大の原因は、毎週、高級ホテル等で食事をしながらの会合が原因である。欧米先進国のクラブでも、食事代は年会費と別にしたり、早朝例会で、食事代を倅約し、若年層の入りやすい環境を整え、会員増強に成功している事例が多い。

②会員数が40名～50名以上あり、都市基盤の大きい地域は、例会卓話者の確保等にも困らないが、会員数が少なく、都市基盤が小さい地域では、例会内容の質が落ちることは避けられない。

これらを克服し、ロータリーを楽しみ地域貢献も果たすことが、クラブ指導者の最大の課題である。

③最後になりますが、近年、RI は余りにも恵まれない地域への社会貢献事業等にシフトし過ぎており、すぐ足元の地域貢献や、ロータリー創立以来の親睦、職業奉仕への指導を怠ってきたのではないか。

④今一度、原点に立ち返り、一人一人のロータリアンが、自らのクラブ活動の中に生きがい、やりがいを感じるようになれば、会員増強も自ずから後についてくるものと確信します。

以上